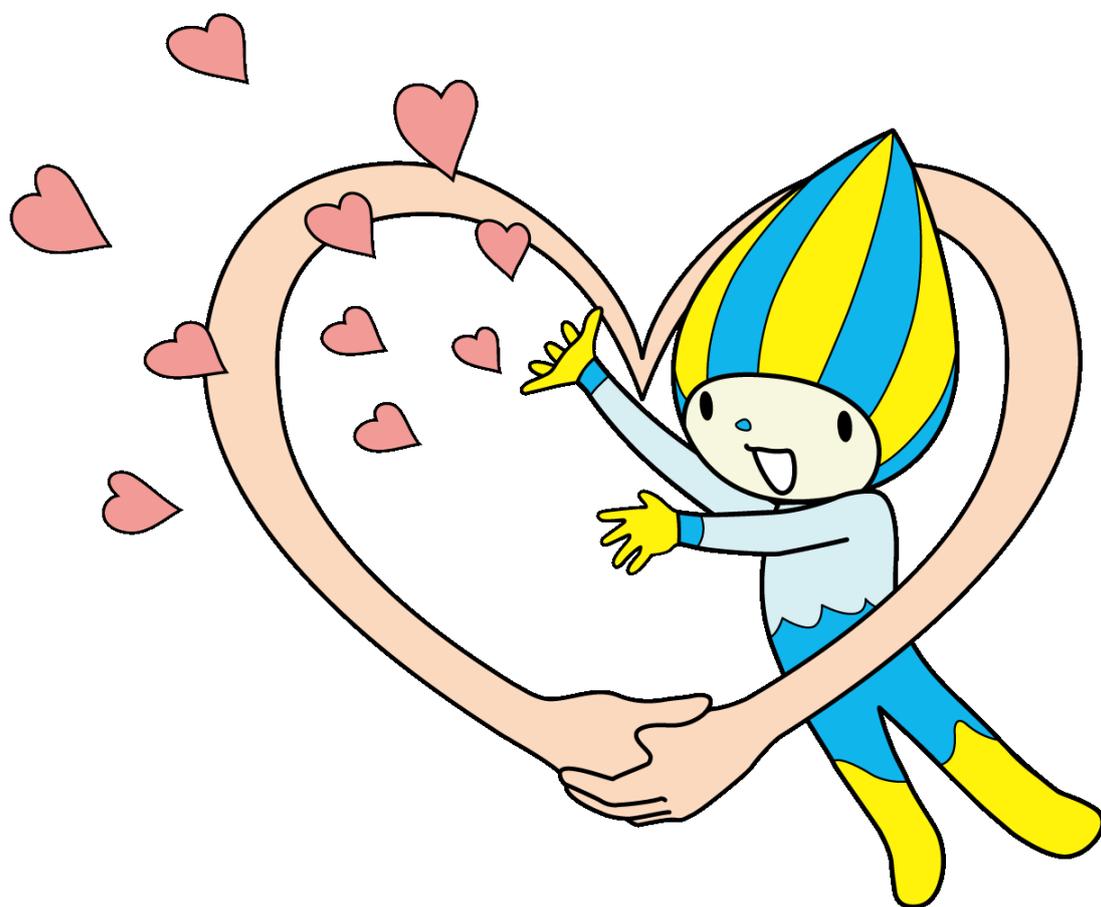


学校における  
がん教育の手引き



令和5年3月  
岐阜県教育委員会



## がん教育に携わる先生方へ

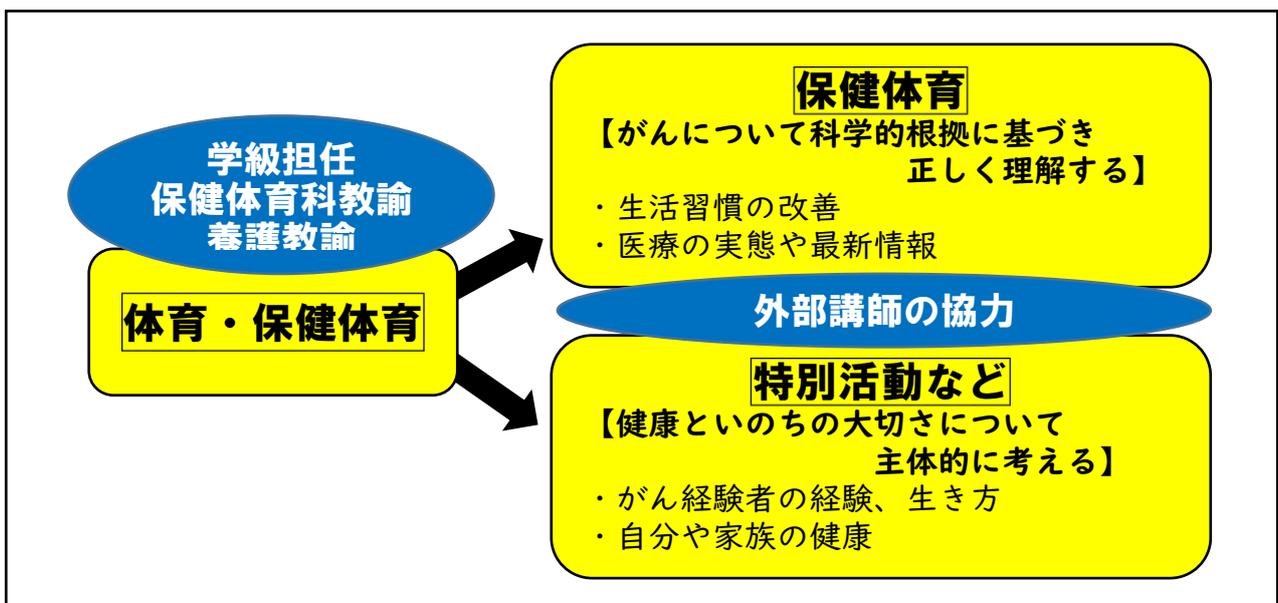
生涯のうち国民の2人に1人がなると推測されるがんは重要な課題であり、がんの知識は、健康に関する国民の基礎的素養として身に付けておくべきものとなりつつあります。健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成することを目指して実施されるものであり、がんをめぐる状況を踏まえると、学校においてがんを取り上げた教育を行うことは、健康教育を推進するうえで意義のあることです。

岐阜県教育委員会では、平成30年度に、文部科学省の「がん教育総合支援事業」を受託して以降、令和3年度までの4年間、県内中学校6校、高等学校6校で、外部講師の協力を得て行うがん教育のモデル授業開発や、がん教育指導者研修会等の研修会を開催して、がん教育を推進してきました。

この度、これまでの取組をまとめ、教師や医師・がん経験者等の外部講師など、がん教育に携わる方々の参考にしていただけるよう、文部科学省の「外部講師を用いたがん教育ガイドライン（平成28年4月）」及び「がん教育推進のための教材（令和3年3月一部改訂）」を参考に、岐阜県版の手引きを作成しました。がん教育の目標である、がんについて正しく理解し、健康といのち<sup>\*</sup>の大切さについて主体的に考えることを通して、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力を育むことができるように、子供たちに教える教師自身が、まずは『がん』及び『がん教育』について主体的に学び、子供たちの生涯にわたる健康のために取り組んでいただくことを願っています。

令和5年3月

岐阜県教育委員会 体育健康課長



※がん教育においては、がんについて学ぶことを通して、生物学的な意味での「命」と人間の尊厳を含めた「いのち」の尊さを学ぶことから、本手引きにおいては平仮名の「いのち」と表記する。

# 目次

## 1 学校におけるがん教育の考え方 p.3～13

- |   |                      |    |
|---|----------------------|----|
| 1 | がん教育の定義              | 3  |
| 2 | がん教育の目標              | 3  |
| 3 | がん教育の具体的な内容          | 3  |
| 4 | 学習指導要領における「がん」に関する記載 | 7  |
| 5 | 学校教育活動全体でのがん教育の推進    | 9  |
|   | (1) がん教育推進にあたっての留意点  | 9  |
|   | (2) がん教育実施にあたっての配慮事項 | 11 |
|   | (3) がん教育岐阜モデル        | 11 |
| 6 | 外部講師の協力について          | 12 |
|   | (1) 期待される効果          | 12 |
|   | (2) 外部講師の協力を得て行う授業の例 | 13 |
|   | (3) 依頼に当たっての留意点      | 13 |
|   | (4) 外部講師の依頼方法        | 13 |

## 2 依頼を受けた外部講師の方へ p.16

## 3 実践事例 p.17～26

## 4 モデル授業指導案 p.27～35

## 5 出典及び参考資料 p.36～43

## 6 相談窓口等 p.44

## 1 がん教育の定義

健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康といのちの大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図る教育である。

がん教育の実施にあたっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、小・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）総則及び高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）1-2-(3)を踏まえ、体育・保健体育、特別活動を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。

## 2 がん教育の目標

- ①がんについて正しく理解できるようにする
- ②健康といのちの大切さについて主体的に考えることができるようにする

## 3 がん教育の具体的な内容

がん教育において、以下のア～ケの内容について指導する。

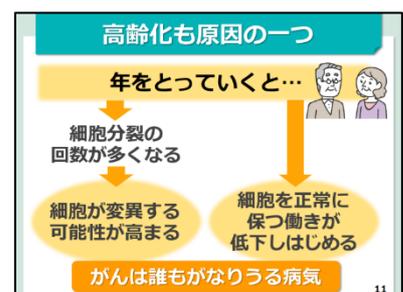
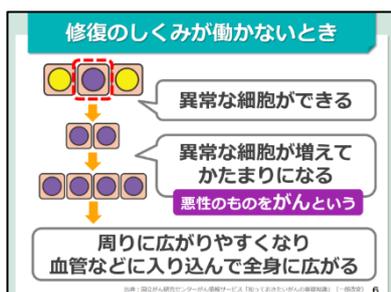
ア	がんとは（がんの要因等）	カ	がんの治療法
イ	がんの種類とその経過	キ	がん治療における緩和ケア
ウ	我が国のがんの状況	ク	がん患者の生活の質
エ	がんの予防	ケ	がん患者への理解と共生
オ	がんの早期発見・がん検診		



### （ア） がんとは（がんの要因等）

がんとは、体の中で、異常細胞が際限なく増えてしまう病気である。異常細胞は、様々な要因により、通常の細胞が細胞分裂する際に発生したものであるため、加齢に伴いがんにかかる人が増える。また、数は少ないが子供がかかるがんもある。

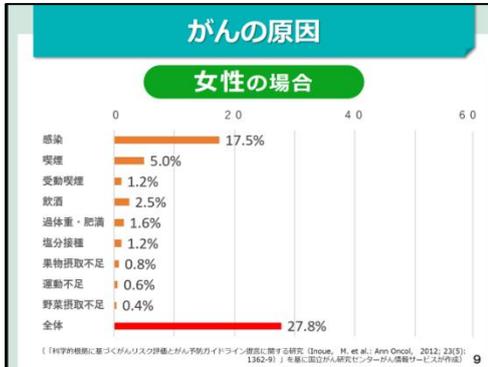
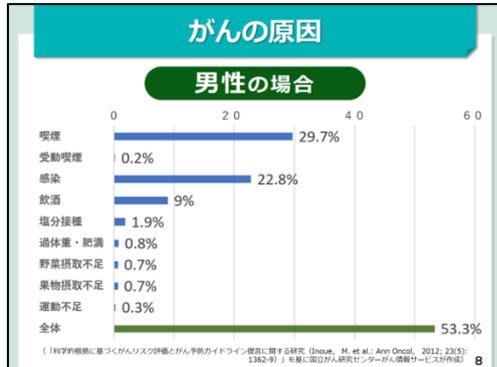
がんになる危険性を増す要因としては、細菌・ウイルスの感染、たばこ、過量な飲酒、偏った食事、運動不足など生活習慣の他、一部のまれなものではあるが、遺伝的原因が関与するものもある。また、がんになる原因がわかっていないものもある。



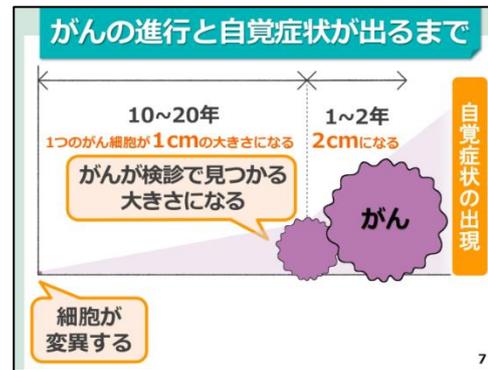
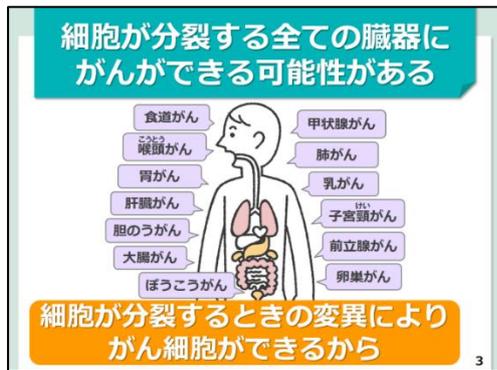
出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール1「がんという病気」

## (イ) がんの種類とその経過

がんには胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなど様々な種類があり、治りやすさも種類によって異なる。また、がんによる症状や生活上の支障なども、がんの種類や状態により異なっている。病気が進み、生命を維持するうえで重要な臓器等への影響が大きくなると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることもある。



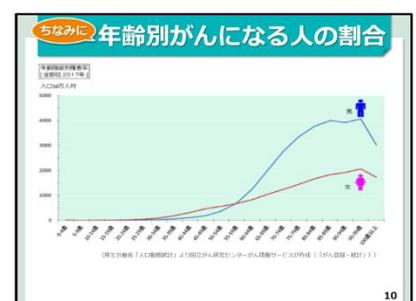
出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール1「がんという病気」



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール3「がんの発生と進行」

## (ウ) 我が国のがんの状況

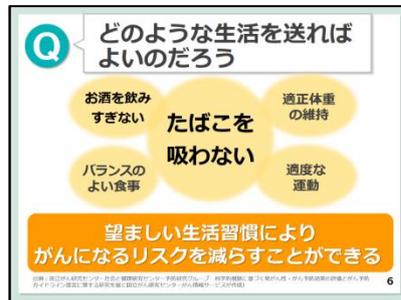
がんは、日本人の死因の第1位で、2021年では、年間約37万人以上の国民が、がんを原因として亡くなっており、これは、亡くなる方の3人に1人に相当する。また、生涯のうちにかんにかかる可能性は、2人に1人（男性の60%、女性の45%（2010年））とされているが、人口に占める高齢者の割合が増加してきていることもあり、年々増え続けている。がんの対策にあたって、すべての病院でがんにかかった人のがんの情報を登録する「全国がん登録」を始め様々な取組が行われている。



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール2「日本のがんの現状」

## (エ) がんの予防

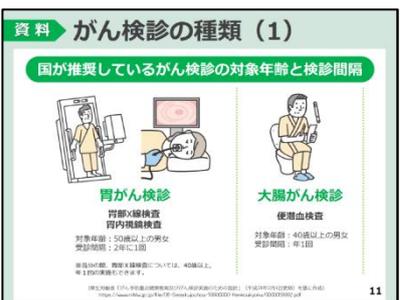
がんになる危険性を減らすための工夫として、たばこを吸わない、他人のたばこの煙をできるだけ避ける、お酒を飲みすぎない、バランスのとれた食事をする、適度な運動をする、適正体重を維持する、定期的に健康診断を受けることなどがある。



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール4「がんの予防」

## (オ) がんの早期発見・がん検診

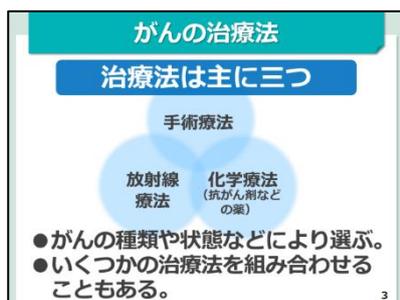
がんになった場合、全体で半数以上、早期がんに関しては約9割以上の方が治る。早期がんは症状が出にくいいため、早期に発見するためには、症状がなくても、がん検診を定期的に受けることが不可欠である。日本では、肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸(けい)がん、大腸がんなどのがん検診が行われている。



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール5「検診の意味」

## (カ) がんの治療法

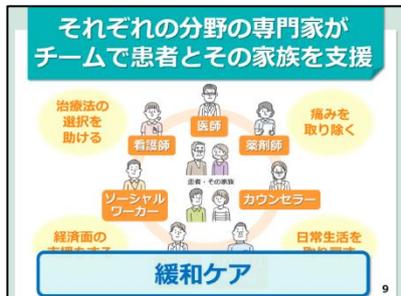
がん治療の三つの柱は手術治療、放射線療法、化学療法(抗がん剤などの薬)であり、がんの種類と進行度に応じて、三つの治療法を単独や、組み合わせて行う標準治療が定められている。それらを医師等と相談しながら主体的に選択すること(インフォームド・コンセント)が重要となっている。



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール6「がんの治療で大切なこと」

## (キ) がん治療における緩和ケア

がんになったことで起こりうる体の痛みや心のつらさなどの症状を和らげ、通常の生活ができるようにするための医療が緩和ケアである。治らない場合も心身の苦痛を取るための医療が行われる。緩和ケアは、終末期だけでなく、がんが診断されたときから受けるものである。



出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール7「がん治療の支援」

## (ク) がん患者の生活の質

がんの治療の際に、単に病気を治すだけではなく、治療後の生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を大切に考える考え方が広まってきている。治療による影響について十分理解したうえで、がんになっても、その人らしく、充実した生き方ができるよう、治療法を選択することが重要である。

**Q** がん患者は何を望み、何を求めているのだろうか

**事例1**

- 進行したがんとなり、抗がん剤治療を続けている。
- 仕事を続けるため、通院しながらできる治療方法を選んだ。
- 子供に病気のことをどう話すが悩んでいるが、今は家族との時間を何よりも大切に過ごしたいと思っている。

**Q** がん患者は何を望み、何を求めているのだろうか

**事例2**

- 乳がんが胸に大きな傷が残り、自信を失って閉じこもりがちになっていた。
- 患者の会に入って同じ乳がんの仲間と出会い、貸切で温泉に入ることができるようになった。好きだった旅行を楽しむことができるようになった。
- これからも生き生きと自分らしく生きたいと思っている。

がん患者の「生活の質」

一人一人の生き方が異なるように、  
がんへの向き合い方も人それぞれ

自分らしく生きられるよう  
生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）  
の維持・向上が大切

出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール8「がん患者の思い」

## (ケ) がん患者への理解と共生

がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしやすい社会にしていくことが大切である。

**Q** がん患者とどのように接すればよいのだろうか

**事例1**

友人という時間は、病気とは何の関係もない自分ていられる時間です。

何でもない話をし、一緒に笑って、共に過ごすことで、「患者」としてではない、これまでどおりの「自分」を取り戻せるような気がします。

家族や友人にこれまでどおり接してほしい。

がんを正しく理解してほしい。

がん患者にはさまざまな願いがある

がんについて周囲の理解がある。

がんの治療に周囲の協力が得られる。

がんへの正しい理解が誰もが暮らしやすい社会につながる

出典：文部科学省 がん教育推進のための教材 スライド教材モジュール9「がん患者と共に生きる社会」

### 【取り扱い上の留意点】

- ・(ア)～(ケ)の内容を適宜関連付けて、理解できるようにする。また、それぞれの内容を関連付けて、一次予防(生活習慣の改善等)、二次予防(がん検診等)について理解できるようにする。
- ・がん教育は、健康教育の一環として行われることから、体育・保健体育、特別活動を中心に、学校の実情に応じて教育活動全体を通じて行うことが大切である。
- ・現在及び将来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。
- ・がん教育の二つの目標を達成するために、がん教育を通して健康やいのちのかけがえのなさに気づき、がん患者や家族などのがんと向き合う人々の取組に関心をもつとともに、健康な社会の実現に努めることができるように留意する。

## 4 学習指導要領における「がん」に関する記載

### (1) 体育・保健体育

#### ① 小学校学習指導要領(平成29年3月告示) 体育 抜粋

ア 知識

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

- ㊦ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

#### ② 中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 保健体育 抜粋

ア 知識

(ウ) 生活習慣病などの予防

㊦ 生活習慣病などの予防

生活習慣病は、日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを、例えば、心臓病、脳血管疾患、歯周病などを適宜取り上げ理解できるようにする。

その際、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足、喫煙、過度の飲酒などの不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解できるようにする。

生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、

口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

① がんの予防

がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解できるようにする。

また、がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解できるようにする。

なお、㉗、㉘の内容と関連させて、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できることなどを取り上げ、**疾病の回復についても触れるように配慮するものとする。**

### ③高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）保健体育 抜粋

ア 知識

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて**理解できるようにする。**がんの回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを**理解できるようにする。**

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

## (2) 特別活動

### ①小学校 学級活動

(2) 日常生活や学習への適応及び保健安全

ア 希望や目標をもって生きる態度の育成

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

## ②中学校 学級活動

- (2) 適応と成長及び保健安全
  - イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
  - キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

## ③高等学校 ホームルーム活動

- (2) 適応と成長及び保健安全
  - イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
  - キ 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立

## (3) 道徳

### ①小学校 [第5学年及び第6学年]

- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
  - (1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

### ②中学校

- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
  - (1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
  - (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見出すように努める。

## 5 学校教育活動全体でのがん教育の推進

### (1) がん教育推進にあたっての留意点

学校におけるがん教育の位置付けは、以下の図のように整理することができる。

【図】学校におけるがん教育の位置付け



また、がん教育の具体的な内容の体育・保健体育及び道徳科・特別活動における扱いを一覧に示すと、下図のように示すことができる。

【図】がん教育の具体的な内容の位置付け

学校種	小学校		中学校		高等学校	
	体育科 保健領域	道徳・特別活動	保健体育科 保健分野	道徳・特別活動	保健体育科 科目保健	特別活動
ア がんとは何か	△		◎		○	
イ がんの種類とその経過	△		◎		○	
ウ 我が国のがんの現状	△		◎		○	
エ がんの予防			◎		○	
オ がんの早期発見・検診			◎		○	
カ がんの治療法			△		◎	
キ がん治療における緩和ケア				(○) 可能であれば扱う	◎	○
ク がん患者の生活の質		(○) 可能であれば扱う		○	◎	○
ケ がん患者との理解と共生		(○) 可能であれば扱う		○	◎	○

※表中の記号は次のことを表す。 ◎：重点を置く ○：扱う △：触れる  
小児がんについてはすべての校種で配慮する。

がん教育を推進し、目標を達成するためには、体育・保健体育における発達段階を踏まえた系統的な指導を行うとともに、健康教育の一環として、学校保健計画に位置付け、体育・保健体育を中心に、特別活動や道徳科、総合的な学習の時間等との関連を図り、学校の実情に応じた教育活動全体を通じて行うことが大切である。

【図】がん教育を位置付けた学校保健計画の一例

令和4年度 学校保健計画											垂井町立不破中学校		
月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3		
月の目標	自分の健康状態を知り、健康な体づくりをする	運動能力を知り、身体を鍛える	口腔の健康を考える 食中毒・熱中症予防に努める	熱中症予防に努める	けがの防止に努める 緊急時の対応を身に付ける	目の健康を考える	感染症とその予防について考える	冬の健康を考える	かぜの予防に努める	心の健康について考える	健康生活の反省をする		
保健的行事	エドベシ講習会 命を守る訓練 宿舎測定・視力検査 聴力検査(1・3年) 尿検査 結核検査 歯科検診	内科検診・運動器検診 体力テスト 部上研修(1年) 広島研修(3年)	歯の衛生週間 プール開き 職員研修 職員研修(2年) 福島研修	学校保健安全委員会 部・団員研修 緊急会議 AED講習会 職員研修 職員研修検診(レントゲン)	心臓同検査 命を守る訓練	目の健康週間	薬物乱用防止教室 <b>がん教育</b> 防護教室 <b>がん教育</b>		命を守る訓練	学校保健安全委員会			
保健指導	健康診断に伴う事前・事後指導(家庭連絡) 宿泊研修事前指導 保健室の利用について 職員のアレルギー、緊急時の研修	健康診断後の治療 助言と事後指導 宿泊研修事前指導	心の健康調査 健康相談 夏のスポーツに 関わる指導・熱中 症の予防 歯科衛生指導	水泳指導 健康の記録配布	けがの防止 緊急時の対応 指導	心の健康調査 教育相談 目の健康について 男女交際(2年生)	生活習慣病予防 薬物に関する指導 <b>がん教育</b>	冬の健康 室内換気 かぜ・インフル 予防 エイズについて 考える	室内換気	室内換気 心の健康調査 教育相談	健康生活の反省		
保健教育	1年生 保健：心身の発達と心の健康 「性機能の成熟」「性とどう向き合うか」												
	2年生 保健：健康と環境・傷害の防止「環境ホルモン」 <b>がん教育</b>												
	3年生 保健：健康な生活と病気の予防「感染症の予防/エイズ」 <b>がん教育</b>												
食に関する指導	衛生管理に気を付けた食事をしよう。 丈夫な体をつくるために自分ができることを見つけよう。		生活のリズムを整え、朝食を食べる習慣を身に付けよう。		自分の体の成長や健康を考え、食事をしよう。 和食のよさを味わおう。								
給食指導	給食時間の過ごし方 ・衛生的でスピーディーな準備・片付けの仕方・協力体制 ・当番の身支度・手洗い・食事環境の整備 ・親子手作りにおにぎり弁当の日		給食時間の過ごし方 ・衛生的でスピーディーな準備・片付けの 仕方・協力体制 ・衛生的な食事		健康考えた食事のあり方 ・配膳方法の見直し ・食量量の調整方法 ・苦手な食べ物も食べる ・親子手作りに弁当の日		感謝の心 ・食に携わる多くの人々への感謝や食べ物への感謝をもって食べる (あいさつ・食事の仕方・後片付け 等行動で示す) ・親子手作りに弁当の日		楽しい食事のあり方 ・食事のマナーの見直し ・食事環境の整備 ・学校みんなで協力して楽しい時間を作る				
保健管理	緊急体制の確立 生徒の健康状態の把握 保健調査等の実施 保健室整備と薬品点検	スポーツ振興セン ター加入手続き	健康診断結果の把握 ・治療状況の確認 水泳指導者への指導	教室内環境の整備 (気温・湿度)	運動施設点検 体重減少者への指導	低視力者への受診 勧告	冬の安全 (登下校含む) インフルエンザの感染状況把握・報告				年間統計地理 情報簿点検 反省と次年度計画 の作成		
環境管理	机・いすの整備 校舎内外の整備	手洗い場の衛生	配膳室の衛生点検 飲料水・プール水 水質検査	ダニ、空気検査 飲料水水質検査 プール衛生管理 受水槽清掃・点検 騒音検査	机・いすの整備	照度測定 黒板の整備	暖房器具点検 加温器具点検 室内環境管理	机・いすの整備 環境調査 (照度・空気・騒音)			施設設備・用具の 点検		
日常活動	健康観察・欠席確認・水質検査・トイレ環境の確認・救急処置・保健室の整備・健康相談・校舎内外の点検・疾病異常者の経過観察及び指導・給食指導					月定例 欠席統計・来室統計・保健だより発行・健康指示・スポーツ振興センター事務手続き・安全点検・薬品点検・健康委員会・交通指導・生活指導部会							

## (2) がん教育実施にあたっての配慮事項

生涯のうちに2人に1人が何らかのがんになると推測される時代である。がん教育の実施にあたっては、家族や身近な人ががん患者や、がんで亡くした児童生徒等、以下のような事例に該当する児童生徒がいることを前提として、児童生徒の家庭状況や心理面に配慮する必要がある。配慮の具体については、健康教育において、これまで学校が蓄積してきた事例を生かすことが大切である。

### <配慮が必要な事例>

- 小児がんの当事者、小児がんになったことのある児童生徒がいる。
- 家族や身近な人ががん患者家族や身近な人をがんで亡くした児童生徒がいる。
- がんに限らず、重病・難病等になったことのある児童生徒や、家族や身近な人に該当者がいたり、亡くしたりした児童生徒がいる。
- 子宮頸がんワクチンを接種した、あるいは、接種を見合わせたことにより、心身に不調が生じた生徒がいる。

### 〔配慮の例〕

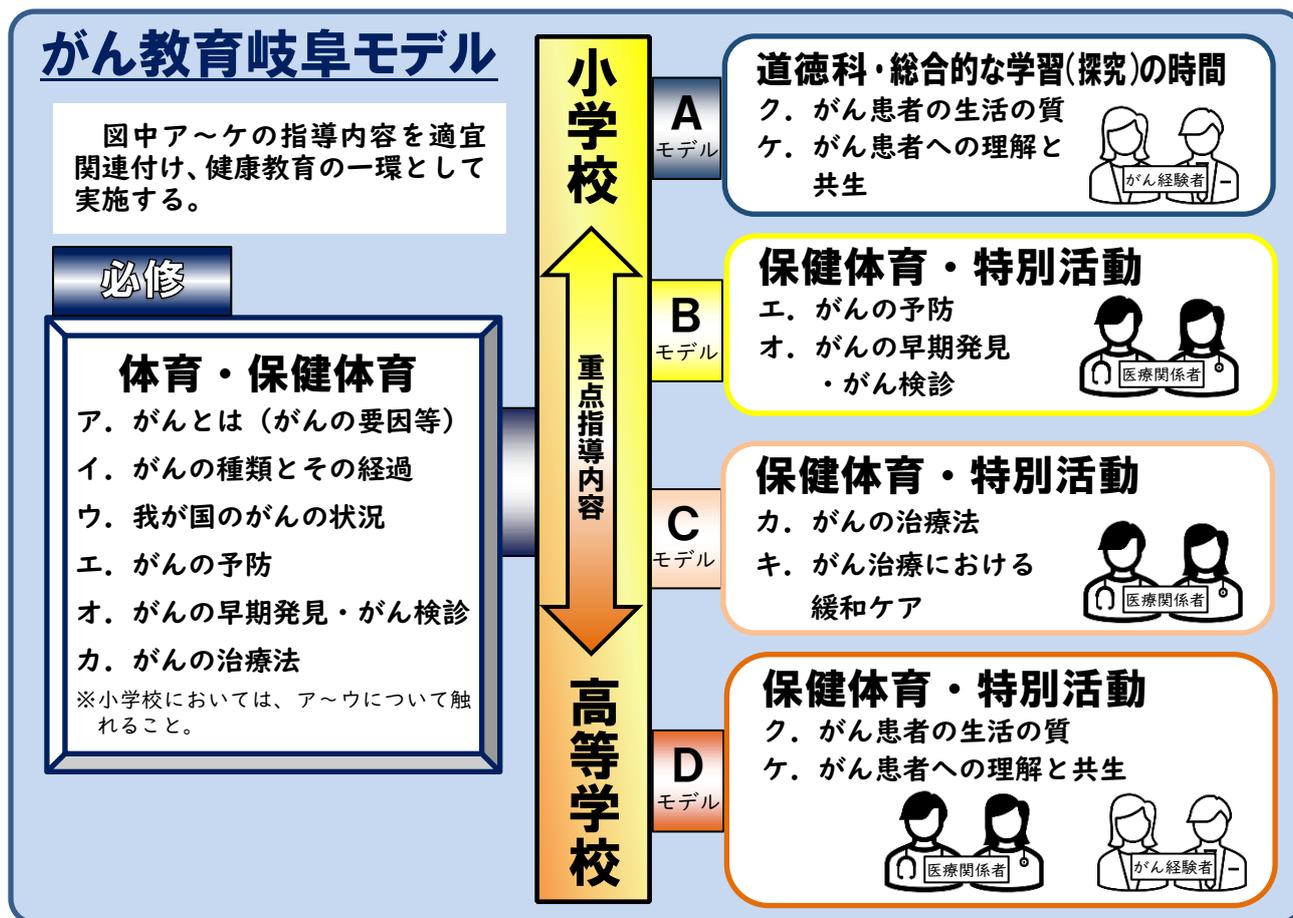
- ☞事前調査を行うなど、実態を把握し、授業内容について事前に周知する。
- ☞「がん教育を行うこと」や「心配があれば、いつでも相談できること」を、あらかじめ保護者に学年・保健だよりや通知文などで周知する。
- ☞事例を一般化する。
- ☞授業の冒頭で、「悲しくなったり、聞いているのがつらくなったりした場合は、先生に伝えてください」等の言葉がけをする。
- ☞授業を受けたくない場合は、別室で過ごさせるなど、必要な配慮ができる体制や環境を整備する。
- ☞養護教諭等と共に複数体制で指導を行い、授業中の児童生徒の様子を観察から、必要に応じて個人対応ができるようにする。
- ☞児童生徒の様子から、授業中の意図的な声掛けや、授業後の個人面談を実施する。

## (3) がん教育岐阜モデル

岐阜県においては、必修である体育・保健体育でがんに関する基本的な内容を1時間学んだ後に、以下の2つの視点のいずれかを選択して指導を行う2時間以上の構成を基本としてがん教育を実施する。

- 視点1：生活習慣病などの予防として、がんについて正しく理解することに重点を置いた体育・保健体育の授業
- 視点2：健康といのちの大切さについて主体的に考えることに重点を置いた特別活動、道徳科等の授業

【図】 がん教育岐阜モデル



## 6 外部講師の協力について

### (1) 期待される効果

がん教育は、健康教育の一環として、体育・保健体育の授業を中心に、特別活動や道徳科、総合的な学習の時間（高等学校においては「総合的な探究の時間」）等と関連させ、学校の実情に合わせて学校教育全体で行うものである。実施にあたっては、がんという専門性の高さから、医師やがん経験者などの外部講師に協力を依頼し、外部講師と連携して進めることによって、以下のような教育効果の高まりが期待できる。

◎地域の現状や課題、最新の情報などを交えたわかりやすい説明や、既習の内容と関連させた指導が、児童生徒の知識の深まりを生み出す

◎自身の経験を交えた健康やいのちの大切さなどについての積極的なメッセージが心に響く

## (2) 外部講師の協力を得て行う授業の例

外部講師の専門性や経験が発揮され、外部講師の協力を得て行う指導が児童生徒にとって効果的になるよう、依頼する内容に応じて以下の授業例が考えられる。

- ◆がんに関する科学的根拠に基づいた知識や、がんに関する最新の情報などの専門的な内容を扱い、がんについて正しく理解することに重点を置いた授業を行う場合、学校医やがんの専門医、看護師等に外部講師を依頼することが考えられる。
- ◆がんを通して健康といのちの大切さについて考えることに重点を置いた授業を行う場合、がん経験者等に外部講師を依頼することが考えられる。

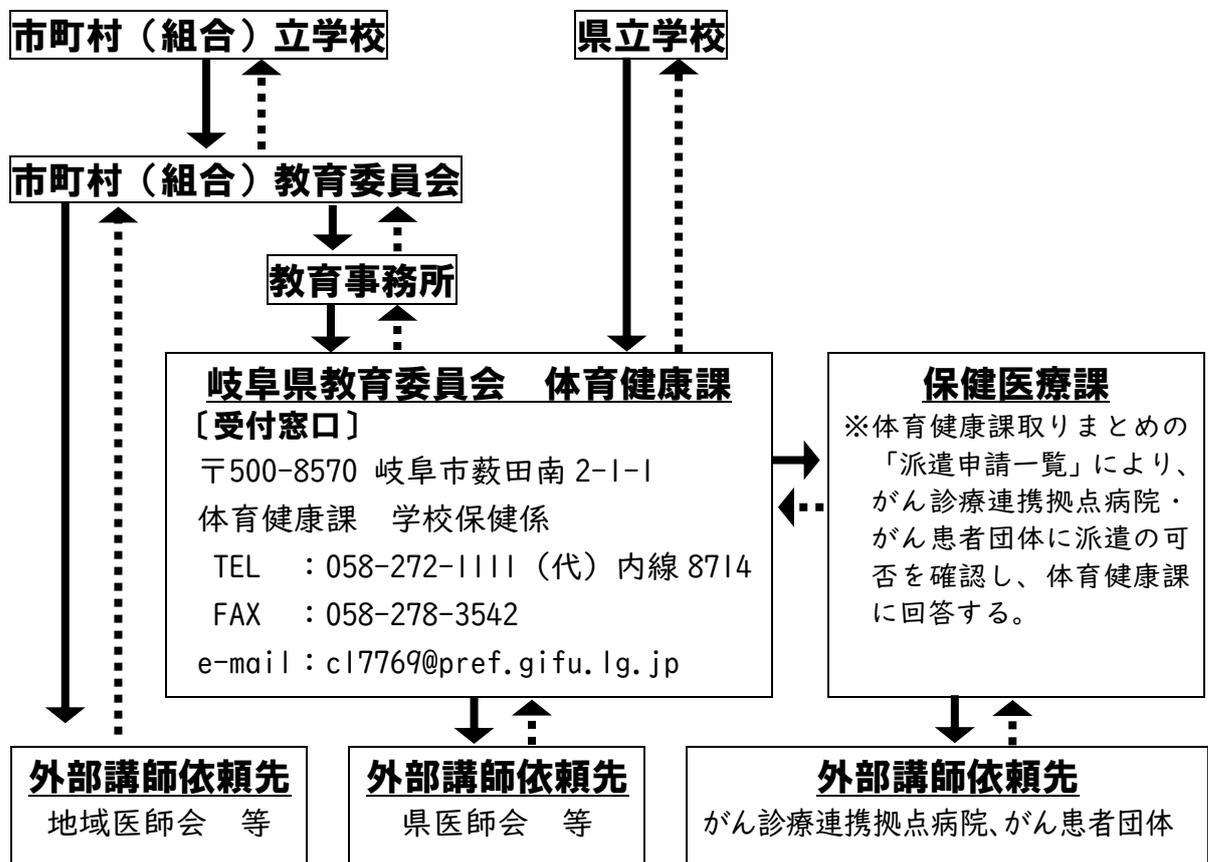
## (3) 依頼に当たっての留意点

医師やがん経験者等の専門家は、それぞれの専門性は備えていても、児童生徒に対する教育指導に関しては専門家ではない。外部講師への協力の依頼にあたっては、事前に学校のがん教育に対する考えや、学習のねらい、指導に当たっての配慮事項など、外部講師に依頼したい内容について丁寧に説明する必要がある。

## (4) 外部講師の依頼方法

外部講師の依頼にあたっては、以下①～④の手順を参考に依頼する。

### ①派遣申請 ※「(別紙2)がん教育に係る外部講師派遣申請書」による。



※1 学校は、5月～9月に実施する場合は4月末日までに、10月～2月に実施する場合は8月末日までに、市町村（組合）教育委員会または県教育委員会体育健康課へ申請する。

※2 市町村（組合）教育委員会または県教育委員会は、外部講師リストから日時、内容、派遣に係る諸経費を勘案し調整を行う。

※講師の調整に2週間程度の期間を要することから、4月中に実施する授業等への外部講師の派遣申請に応えることは困難。

※日程等が合わず、申請に応えられない場合もある。

※がん教育推進指定校を除き、県教育委員会から、がん教育に係る講師派遣の予算措置はない。

※がん教育推進に生かすため、年度末にがん教育実施状況調査を行う予定。

## ②教育委員会から学校へ連絡

※「(別紙3) がん教育に係る外部講師について(案内)」による。

## ③学校から依頼先へ連絡・調整

・「(別紙3) がん教育に係る外部講師について(案内)」の内容確認と学校の現状等の情報交換を行い、外部講師の了承を得る。

※「(別紙4) 事前打合せシート」等を活用し、依頼内容を具体的に説明する。

## ④学校から正式に外部講師へ派遣依頼

・③で外部講師に対して詳細を説明し、最終的に外部講師派遣の了承が得られた場合、各校より正式に派遣依頼を行う。

※「【様式第1号】 がん教育講師派遣依頼書」による。

## ～参考資料掲載先～

- ・(別紙1) 岐阜県がん教育外部講師登録用紙 . . . . . P.37
- ・(別紙2-1) がん教育に係る外部講師派遣申請書 . . . . . P.38
- ・(別紙2-2) がん教育に係る外部講師派遣申請書 . . . . . P.39
- ・(別紙3) がん教育に係る外部講師について(案内) . . . . . P.40
- ・(別紙4) がん教育事前打ち合わせシート . . . . . P.41
- ・【様式第1号】 がん教育講師派遣依頼書(所属長宛) . . . . . P.42
- ・【様式第1号】 がん教育講師派遣依頼書(講師宛) . . . . . P.43

<外部講師派遣申請から授業実施までの校内手続き（例）>

	企画・派遣依頼	打合せ	準備・事前指導
校内	<p>保健主事、授業を担当する保健体育教諭、学級担任等、核となる教員を決め、関係教員と連携しつつ、外部講師の協力を得て行うがん教育を企画する。</p> <p><input type="checkbox"/>重点とするテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんに関する科学的根拠に基づいた理解</li> <li>・健康やいのちの大切さについて主体的に考える</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>いつ</p> <p><input type="checkbox"/>だれを講師に</p> <p><input type="checkbox"/>謝金支払いの可否</p>	<p>外部講師と連携した授業の実施に向けて、教員の共通理解を図り、実施内容や関連を図る教育活動等について話し合う。</p> <p>また、既習事項や関連する活動等の指導構想をまとめて授業のねらいを明確にするとともに、教科書やがん教育に関わる資料（文部科学省スライド資料等）を準備し、外部講師との打合せに備える。</p>	<p>授業当日に児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。</p> <p>必要に応じて、事前学習や事前指導、アンケート等を行う。</p> <p>※通信等で学習について保護者の理解を得るとともに、個別の配慮が必要な児童生徒を把握する。</p>
関係者との調整	<p>外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、設置者である教育委員会に講師の派遣を依頼する。</p> <p><input type="checkbox"/>外部講師派遣申請</p> <p><input type="checkbox"/>依頼先との連絡・調整派遣申請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時</li> <li>・依頼内容</li> <li>・報償費・旅費 等</li> </ul> <p><u>(参考) 1時間あたりの報償費</u></p> <p>医師・大学教授 : 11,300円</p> <p>看護師・その他専門家: 6,000円</p> <p>※R03「がん教育総合支援事業」事業委託経費の算定基準に基づく。</p> <p><input type="checkbox"/>正式依頼状送付</p> <p><input type="checkbox"/>打合せ日程調整</p>	<p>講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。</p> <p><input type="checkbox"/>既習事項の確認</p> <p><input type="checkbox"/>詳細な日程</p> <p><input type="checkbox"/>役割分担</p> <p><input type="checkbox"/>準備品等</p> <p><input type="checkbox"/>配慮を要する児童生徒等、留意事項の確認</p>	<p>外部講師と共に、配布資料やスライド資料の有無、資料やデータの受け渡し方法など、資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。</p> <p>外部講師と教員との役割分担や時間配分についても確認する。</p>

学校は、以下のような教育的効果を期待して指導の協力を依頼する。

### 【外部講師に期待する教育効果】

- ◎地域の現状や課題、最新の情報などを交えたわかりやすく具体的な説明が、経験や既習内容と関連させる児童生徒の思考を促し、理解の深まりにつながる
- ◎自身の経験を交えた健康やいのちの大切さなどについての積極的なメッセージが心に響く

指導に協力していただく際は、学校のがん教育に対する考えについて事前に説明を受け、学習のねらいや、以下の指導のポイントについて理解しておくことが重要である。

### 【指導のポイント】

- がんになる原因や種類、治療法など、基本的な知識について、「何を」、「どこまで」事前に学んでいるのか授業前に学校と打ち合わせを行い、内容を整理し、授業のねらいに合わせ、内容を精選するようにする。
- 体験談等を話す際は、授業前に学校と打ち合わせを行い、内容を整理し、児童生徒の発達の段階に応じた内容に合わせ、内容を精査するようにする。
- 写真や図などを用いたり、わかりやすい例を示したりする。
- 一方的に話し続けるのではなく、外部講師から質問したり、児童生徒からの質問に答えたりするなど、児童生徒が主体的に考えることができるようにする。
- 「がんの告知を受けたときの気持ち」や「治療中の支えになったこと」、「選択にあたって悩んだこと」など、具体的な場面や状況を示しながら投げかけを行い、児童生徒が考えたり、グループトークなどで話し合ったりできるようにする。
- 怖さを強調するのではなく、「自他の健康といのちの大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることなどを念頭に置くようにする。
- がんの治療などには、医療従事者や家族などの協力が大切であることに児童生徒が気付くことができるような内容にする。
- 授業の後に、児童生徒が希望をもち、前向きな気持ちになるような内容にすることを心掛ける。

※参考：がん教育における配慮事項ガイドライン（令和2年2月）

一般社団法人 全国がん患者団体連合会

## 必修



真正中



不破中

本巣市立真正中学校・垂井町立不破中学校

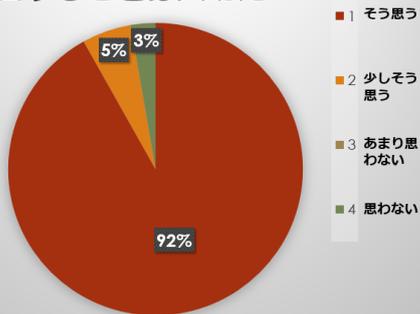
【单元名】  
健康な生活と疾病の予防

## ＜授業の展開＞

- 1 日本のがんの現状について
- 2 がんの発生について
- 3 がんの治療法について
- 4 がんになりにくくするためにできること
- 5 がん検診の有効性について
- 6 アンケートへの記入（さらに知りたいこと）



感想やアンケートのオンライン入力

「がん」について  
学習することは大切だ

授業改善につなぐための事前アンケートの実施

## 理由

- ・ どのような人ががんになりやすいのか知りたいから
- ・ がんについて知ることによって将来防げるかもしれないから
- ・ がんについて知ることが分かれば防いだりできるかもしれない
- ・ なる前に予防できるかもしれないから
- ・ がんにならないように意識することができる。
- ・ がんについて知っておくことは、将来もしがんになったときに役立つかも知れないから
- ・ 将来なるときにどうすればよいか分かる
- ・ 知っておいた方が将来役に立つかも知れないから

問題意識を共有し、主体的な追究につなげるための授業導入資料



がんについての基本的な内容を学ぶ保健体育科の指導



文部科学省資料を活用した保健体育科の指導

## 〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・ 次時の指導効果を高めるために、がんに関する理解を重点とする。時間目の終わりにアンケートを記入する時間を設け、その内容を集約して外部講師（医師）に伝え、生徒の実態を踏まえた意図的な指名や資料作成上の参考となるようにした。

モデル <b>A</b>	道徳	垂井町立不破中学校
		主 題 名：いのちを考える 指導内容：D(19)生命の尊さ

### <授業の展開>

- 1 「生きる」とはどのようなことか、考えを交流する。
- 2 資料「奇跡の一週間」を範読する。
- 3 発問：キツネの挿絵をお願いした時、始めは後悔していたのに、途中から注文をつけた私はどんな気持ちだったのだろう。
- 4 発問：「あの時間は、私にとっても本当にかげがえのないものでした。」と私が考えたのはどうしてだろう。
- 5 発問：かげがえのない時間を過ごすことができたのは、私と北村さんだけだろうか。
- 6 本時の道徳的価値をまとめる。
- 7 これまでの生活を振り返り、「生きる」ということについて、また、これからの生活について自分を見つめよう。
- 8 教師の話

#### 【生徒の振り返り】

- ・残された時間が短くても、その時間を精一杯生きることが大切だとわかりました。これからは、「いのち」があることを大切に思い、精一杯に生きていきたいです。
- ・もう治らない病気の方は「かわいそう」と思っていました。でも、もう治らなくても一生懸命に生きていることに「かわいそう」と思っていたことが恥ずかしくなりました。
- ・今出会っている人とも、いつかは会えなくなる時が来る。だから、出会ったことに感謝をして、今の時間を大切にしたいと思いました。
- ・今までは、病気の方に無理をさせてはいけないと思っていました。しかし、他の人の「最後に生きがいを感じてほしい」という意見を聞いてなるほどと思いました。勝手に理解しないで、相手がどう思っているのか理解し、やりたいことがあるのならば、これからは応援したいと思いました。
- ・「死んだ人」ではなく、「一生懸命生きた人」と思うようにしたいと感じました。そして、自分も最後まで満足するように生きたいし、自分の「いのち」を大切にするだけでなく、他の人の「いのち」も大切にしたいと思いました。

モデル <b>B</b>		<b>本巣市立真正中学校</b>
		<b>【单元名】</b> <b>健康な生活と疾病の予防</b>

### <授業の展開>

- 1 生徒の質問に基づいた医師からの説明
  - ・がんについて
  - ・がんの予防法について
  - ・その他（がん検診の有効性、治療や副作用・治癒率、身近な人ががんになったら）
 ☞医師(T2)：質問をした生徒の名前を紹介しながら、具体的な事例やデータを用いた資料を用いて、前時の学習内容への理解を深める説明をしていただいた。
- 2 自分や家族が、がんになりにくくするための生活習慣づくりについて
  - ☞医師(T2)：グループのディスカッションが活発になるように、生徒の疑問にその場で答えていただいたり、具体を引き出すための問いかけをしていただいたりした。
- 3 全体交流
  - ☞医師(T2)：生徒の発表内容を整理し、望ましい生活習慣づくりのために重要なことをまとめていただいた。
- 4 がんになりにくくするためにできること
  - ☞医師(T2)：「3 全体交流」の内容を集約したスライドを示しながら、生徒が考えた内容について助言していただいた。



### 〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・前時の学習内容や、生徒のアンケートを事前に渡しておき、生徒の実態を踏まえてお話ししていただくことで、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。
- ・画用紙に書き出しながら話し合うことによって、画用紙に書かれた内容や生徒の様子を見ながら、外部講師が意図的に問いかけや補足説明等の関わりができるようにした。

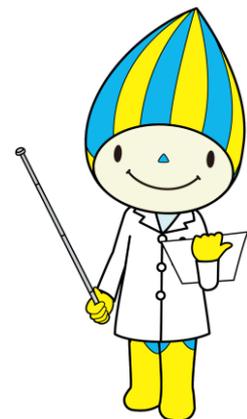
モデル <b>B</b>		美濃加茂市立西中学校
		<b>【単元名】</b> 生活習慣病の予防『がんの予防』ヘルスプロモーション

### <授業の展開>

- 1 生徒の質問に基づいた医師からの説明
  - ・がんの原因には、生活習慣以外に何があるか
  - ・がんになってしまうと、体はどのような状態になるか
  - ・身内ががんにならないために、または、なってしまったときに何ができるか
- ☞医師(T2)：具体的な事例やデータを用いた資料を用いて、前時の学習内容への理解を深める説明をしていただいた。
- 2 がんとの向き合い方を考える
  - ・医師からの説明を聞いて、さらに疑問に思ったことや知りたいことを質問する。
- 3 医師からのメッセージ



生徒の関心や疑問に沿った外部講師（医師）の説明



### 〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・本時までに学習している内容や、生徒の質問を事前に渡しておくことで、**生徒の実態を踏まえた話をしていただき、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。**
- ・さらに知りたいと思ったことを質問し、その質問にその場で答えていただくことで、**生徒の関心に寄り添った説明を引き出し、生徒の理解を深めることができるようにした。**

<b>必修</b>		県立斐太高等学校
		【单元名】 がん患者と共に生きる社会に向けて

<授業の展開（1時間目）>

- 1 「がん」について抱くイメージについて（交流）
- 2 がんの仕組みについて
  - ☞ 医師(T2)：誰もがなり得る可能性があり、原因として不明なものもあることを具体的に説明していただいた。
- 3 がん検診の種類や受診することの意義、受診率について
  - ☞ 医師(T2)：がん検診の意義や、岐阜県のがん検診受診率の現状について最新のデータを基に説明していただいた。
- 4 タブレット端末を用いた調べ学習（テーマ別追究）
  - [テーマA]  
どうしてがんになってしまうのか
  - [テーマB]  
なぜ、がん検診を受ける人が少ないのか
  - [テーマC]  
がんになりにくくするためには
- 5 発表



ICT 機器の活用による仲間との多面的・多角的な追究

モデル <b>C</b>		県立郡上高等学校
		<b>【单元名】</b> 生涯を通じる健康（医療制度とその活用）

### <授業の展開>

- 1 前回の復習
- 2 治療法を選択するうえで何を重視するか（ディスカッション）
  - Case 1 45歳既婚 子供二人 75歳の母と同居
  - Case 2 30歳独身 仕事に力を入れている時期
- 3 インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて
- 4 緩和ケアについて
  - ☞ 医師(T2)：治療説明の現状や配慮、緩和ケアについて解説していただいた。
- 5 中濃厚生病院でのがん患者支援の実際について
  - ☞ 医師(T2)：患者によって重視したいことは異なり、あらゆる面を考慮し、納得して治療法を選択していく必要があることを説明していただいた。



事例を自分事として捉え、主体的に考える生徒



双方向性を担保したオンライン指導

### 【外部講師との連携上の留意点】

- ・感染防止対策によって学校に赴くことが難しい場合に加え、今後、遠隔地における指導も視野に、双方向性を担保したオンライン形式で指導していただいた。

モデル <b>D</b>		県立斐太高等学校
		<b>【单元名】</b> 生涯を通じる健康（医療制度とその活用）

### <授業の展開>

- 1 (著名人)さんは、生活習慣に問題があって白血病になったのだろうか
- 2 AYA世代のがんについて
- 3 身近な人が「がん」になったとき、自分には何ができるか
  - [テーマA] 家族ががんになったら
  - [テーマB] 自分のパートナーががんになったら
  - [テーマC] 自分のがんになったら
- 4 がん患者が暮らしやすい社会について
  - ☞ 医師(T2)：全体で各グループの発表を交流した後に、がんの治療法、社会復帰するまで、がん患者が暮らしやすい社会について、実例をもとにお話ししていただいた。



外部講師（医師）からの即時評価

### 【外部講師との連携上の留意点】

- ・教諭(T1)の説明に対する補足説明や生徒の考えに対する即時評価やアドバイスを行うT2として参加していただくTT授業形式とした。
- ・がんの原因は生活習慣以外にもあることや、原因がはっきりしていない場合もあること、また、早期発見、早期治療ができれば、多くの場合、治る病気であることを専門医である医師がおさえることで、生徒が誤った認識や不安をもつことがないようにした。
- ・最新の治療法や県内がん検診受診率等のデータ例に説明していただくことで、生徒の関心を高め、正しい情報の理解に基づいた思考・判断・表現ができるようにした。

モデル <b>D</b>		県立恵那高等学校
		<b>【单元名】</b> がんへの向き合い方「自分らしく生きる」

### <授業の展開>

- 1 がんとはどのような病気だったか振り返る
- 2 緩和ケアについて
  - ☞ 医師(T2)：緩和ケアは終末期ケアではないこと。治療と並行してがんが診断されたときから、場合によっては亡くなった後の遺族へのケアも含めて、がん患者とその家族に対して苦痛を和らげるよう支援するものであることを補足説明。
- 3 もし、身近な人ががん宣告を受けたら、あなたには何ができますか？
- 4 もし、あなたががん宣告を受けたら、どう感じますか？
  - ☞ 医師(T2)：グループディスカッションに加わっていただき、価値付けや、問いかけによって、発言の根拠となる見方や考え方を引き出していただいた。
- 5 もし、あなたが余命半年を宣告されたら、残された時間をどう過ごしていきたいですか？
- 6 闘病生活を乗り越え、「自分らしく」やりたいことをやり遂げた著名人の紹介
- 7 「自分らしく生き抜いた」ある方のこと
  - ☞ 医師(T2)：過去に治療を担当された患者さんの闘病の様子を基に、「自分らしく生き抜く」ということについてお話していただいた。



既習の内容や経験を基に、事例を自分事として捉える生徒



外部講師（医師）の問いかけや即時評価による思考の深まり

### [外部講師との連携上の留意点]

- ・ディスカッションに加わっていただき、生徒の意見の価値付けや、根拠の問いかけなどによって、生徒の多面的・多角的な思考を促し、「自分らしく」生きることについての自分なりの考えをもつことができるようにした。
- ・ディスカッションでの生徒の発言を取り上げ、位置付け・価値付けを行いながら説明（補足や修正）をしていただくことによって、生徒が自己とのかかわりで主体的に考え、「自分らしく」生きることについての考えを深めることができるようにした。

モデル <b>D</b>		垂井町立不破中学校
		【单元名】 がんと向き合う

<授業の展開>

1 前時の振り返りと講師の紹介

☞ 医師(T2)：冒頭に「2人に1人はなり得るがんという病気は一人で背負うにはあまりに重く、その重みについて一緒に考えることで、支え合うための心構えをつくる時間にしよう。」と生徒に語り掛け、学習の方向付けをしていた。

2 もし「がんです。」と宣告されたら、どんな気持ちになるか（交流）

3 映像資料「文部科学省『がんとともに生きる』エピソード1がん経験者（長谷川さん）」を視聴

4 長谷川さんの生き方についてどう思うか（交流）

5 講師の説話による単元のまとめ

- ①生徒の発言から感じたこと
- ②最新のがん治療と、今後期待される治療法
- ③心に響いたがん患者の言葉

④垂井町内の「がん検診」受診率の向上、普及に向けて中学生に期待すること

☞ 医師(T2)：学校医という立場から、学校における健康教育と関わらせながら、具体的な事例を挙げてお話ししていただくことで、様々な人々が協力して健康な暮らしをつくりあげていくことの大切さを理解できるようにした。



地域医療を支える学校医による指導

医療費について

医療費が高額になったときのために

**高額療養費**

のことがっておきましょう!

高額療養費とは、医療費が高額（超過）した場合に、その超過分を一定額に抑えるための制度です。高額療養費の上限額は、所得に応じて異なります。詳しくは、お住まいの自治体のホームページをご覧ください。

垂井町のがん検診

種類	検査内容	受診料
大腸がん	便潜血検査	500円
胃がん	胃エックス線検査	700円
胃がんリスク	血液検査	500円
子宮頸がん	細胞診など	700円
乳がん	マンモグラフィーなど	700円
肺がん	胸部エックス線検査	500円
前立腺がん	血液検査	500円

垂井町保健センターに資料提供していただきました。

令和2年度垂井町のがん検診受診率

種類	受診率
大腸がん	7.4%
胃がん	3.6%
胃がんリスク	0.7%
子宮頸がん	4.6%
乳がん	8.4%
肺がん	6.0%
前立腺がん	9.3%

国が目標としている受診率は、**50%**

令和3年7月垂井町保健センターに資料提供していただきました。

地域の現状や最新の情報を伝える外部講師提供資料

がんを  
正しく理解  
してほしい



がん患者には  
さまざまな願いがある

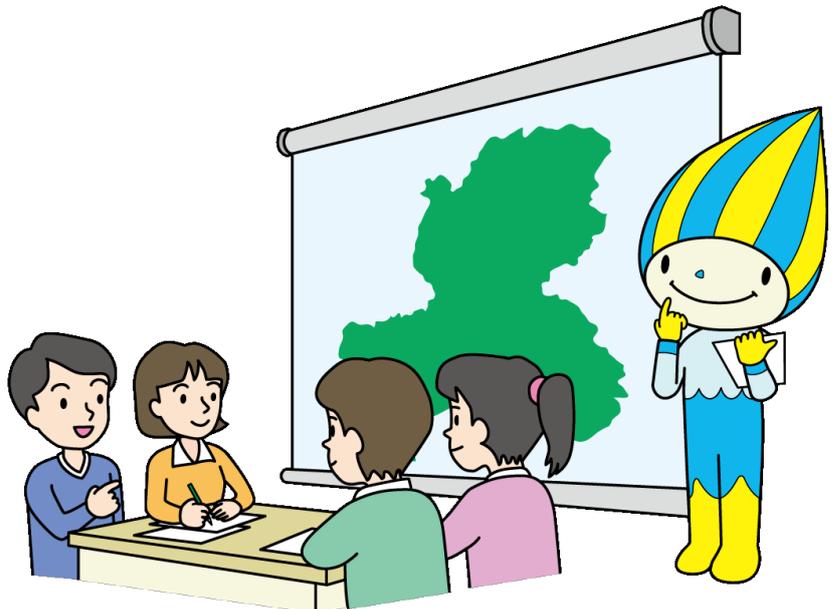
がん検診の普及  
に向けて  
中学生のあなたに  
期待すること

正しい情報を  
受け取って発信する

～「がん」を通して学ぶ～ 外部講師から生徒へのメッセージ

### 〔外部講師との連携上の留意点〕

- ・前時の学習内容や、生徒のアンケートを事前にお渡ししておき、**生徒の実態を踏まえてお話ししていただくことで、生徒が自分との関わりで主体的に追究できるようにした。**
- ・**学校医という立場から、1年時の防煙教室や3年時の性講話等、学校における保健教育と関わらせてお話しいただくことで、生徒が身に付けている知識等を関連付ける思考を生み出し、「がんの予防」について深く理解することができるようにした。**
- ・**学校医という立場から、垂井町のがん検診の受診率や、近隣の病院での先端医療の紹介など具体的に話をさせていただくことによって、生徒がより自分との関わりで主体的に考えることができるようにした。**



## 中学校第2学年 保健体育科学習指導案

### 1 単元名 健康な生活と疾病の予防② 3. がんの予防

### 2 本時のねらい

がんの発生の仕組みとその要因、現状、進行の仕方、進行度と生存率の関係等について学ぶことを通して、がんは生涯のうち二人に一人がかかると推計されること、生活習慣と関係が深いこと、検診による早期発見が重要であることについて理解し、望ましい生活習慣を身に付けようとしたり、がん検診を受診しようとしたりする意欲をもつことができる。(知識)

### 3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり</p> <p>事前アンケート結果を見て、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怖い病気だと思っているのは私だけではないな。</li> <li>・がんになったからといって、必ず命が絶たれるわけではないんだ。</li> <li>・怖いからこそ詳しく知っておきたいな。</li> </ul> <p>がんについて正しく理解し、がんを予防するためにできることを考えよう。</p>	<p>◇グラフ化したアンケート結果を具体的な数値で示すことで、がんに対する意識を共有できるようにする。</p> <p>◇著名人のがん経験者のスライドを見ることで、「詳しく知りたい」「生存するためにできることがあれば知りたい」等、目的をもって主体的に追究できるようにする。</p>
展開	<p>2 がんの発生の仕方とその要因</p> <p>①がんとは正常な細胞の遺伝子が傷つき、異常な細胞である「がん細胞」が増殖する疾病である。</p> <p>②がんは、原因の分かっているものとして、「細菌・ウイルス」「生活習慣」「遺伝的要因」の3つがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは細胞分裂の変異によるものだから、体のいたるところにできるんだな。</li> <li>・健康のための生活習慣は、小学校で学んだな。</li> <li>・私や家族ががんになりにくくするためにできることは何かな。</li> </ul> <p>3 日本におけるがんの現状</p> <p>①がんになる人は2人に1人であること、平均寿命が長くなるにつれてがんによる死亡数は年々増加し、3人に1人ががんでなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは私や身近な人もかかる可能性があるんだな。</li> </ul> <p>4 がん検診の有効性と受診率の現状</p> <p>①がんは発生から自覚症状が出るまでに10～20年かかることもある。</p> <p>②がんは早期発見によって、種類によっては95%の人が治る可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検診を受け、早めに発見することが大切なんだ。</li> </ul>	<p>◇視覚的に分かりやすいように、スライドを用いて説明する。</p> <p>※要因の一つである「細菌・ウイルス」とは、インフルエンザや新型コロナ等のウイルス感染とは異なることを伝える。</p> <p>※「小児がん」など、生活習慣とは関連のないものや、原因が不明なものもあるため、誤解がないようにする。</p> <p>◇加齢による細胞分裂回数の増加や修復・排除などの細胞を正常に保つ働き低下が、がんの罹患数や死亡数の増加につながっていることを押さえる。</p> <p>◇自覚症状が出てからがんは加速度的に大きくなるため、定期的な検診による早期発見や、早期の治療が重要であることを押さえる。</p> <p>◇治療には「手術療法」「放射線療法」「抗がん剤などの化学療法」の3つがあることを押さえる。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは細胞の異常増殖によって、生涯のうち2人に1人がかかる可能性があり、予防や治療には、適切な生活習慣やがん検診などが効果的だと分かった。</li> <li>☞具体的に、私や家族ががんになりにくくするためにできることは何かな？もっと詳しく知りたい。</li> <li>☞早期発見で95%の人が治る可能性があるのに、受診率が50%以下なのはなぜ？私の家族は健康診断やがん検診を受けているのかな？</li> </ul>	<p>◇家庭生活を見つめ、「がんの予防」についてさらに詳しく知りたくなったことや疑問に思ったことをまとめ、次時へ意識をつなぐ。</p> <p>【評価規準】知識 がんの現状や、がんの発生原因、経過などについて理解している。</p>

## 中学校第2学年 道徳科学習指導案

1 主題名 「いのちを考える」D-(12) 生命の尊さ 資料名「奇跡の一週間」(東京書籍)

2 本時のねらい

北村さんの生き方や仲間との交流を通して、生命の尊さ(生命の有限性)を理解し、人は互いに支え合って生き、生かされていることに気付き、自他の生命を大切に生きていく心構えを育てる。

3 本時の展開

避	基本発問と予想される生徒の反応	◇教師の指導 ※留意事項
導入	1 「生きる」とはどのようなことか交流する。 ・今を精一杯に過ごすこと。 ・大変なこと。 ・命があるからこそできること。 ・自分らしく生活すること。	◇「生命の尊さ」の価値についての導入を行う。 ・考えを交流することで、自己を見つめ、「生命」について自己の考えに気付くことができるようにする。
展開 前段	2 資料「奇跡の一週間」を読み、話し合う。 ○キツネのイラストをお願いした時、始めは後悔していたのに、なぜ途中から注文をつけるようにしたのだろう。 ・北村さんの真剣さを感じて自分も刺激を受けた。 ・北村さんに真剣に関わり合えていない自分に気付いた。 ・北村さんは、今この瞬間を大切にしている。自分も全力で立ち向かわないと、北村さんに失礼。  ◎「あの時間は、私にとっても本当にかげがえのないものでした。」と私が考えたのはどうしてだろう。 ・北村さんの頑張りがあったから自分も頑張れた。 ・二人で一緒に作品を作り上げられたと思ったから。 ・みんなの思いが一つになっていたから。 ・今を精一杯に生きることの素晴らしさに気付かせてもらえたから。  ●かけがえのない時間を過ごすことができたのは、私と北村さんだけだろうか。 ・北村さんの奥さんも充実した時を過ごせたと思う。 ・みんなが一丸になって支え合っていた。  ○「生きる」とは、どのようなことなのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">今を精一杯に生活すること。人は一人で生活しているのではなく、何気ない日頃の生活の中で仲間と支え合っているのだと感じました。お互いが今を精一杯に生きていると理解し、支え合うことが「生きる」上でとても大切なことだとわかりました。</div>	・私のがん患者に対しての意識が変化したことを押さえる。 ・弱っていく人に対して優しい言葉をかける以外にも、いのちを大切にする方法があることに気付くことができるようにする。 ・板書を指し示すなど、北村さんと接している中で私に起きた変化からつなげて考えられるようにする。 ・板書に構造的に位置付けることで、多面的・多角的に考えることができるようにする。  ・(●深めの発問) そう考えた理由を問い返し、さらに自己を見つめるようにする。 ・かけがえのない時間を過ごしたのは私と北村さんだけではないことに着目させることで、支え合い、影響し合っていたことに気付くことができるようにする。 ・個々に本時の気付きや道徳的価値に対する考えをまとめる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">【評価の視点】 「生きること」を「いのち」と関連付けて多面的・多角的に捉えている。</div>
展開 後段	3 これまでの生活を振り返り、「生きる」ということについて、また、これからの生活について自分を見つめる。 ・普段の生活の中での仲間を思った関わりが、一生懸命生きることにつながるのだと感じました。 ・自分のかけがえのない生命を大切に、何気ない仲間との生活で互いに支え合って生活したい。 4 振り返りを交流する。	・自分自身の経験や考えを記入することで、「生きる」ということについて自分自身をじっくりと見つめることができるようにする。 ・自分の経験と関連付けて、振り返ることができている姿を価値付ける。 ・変容が見受けられる生徒を意図的に指名する。
終末	5 教師の説話を聞く。	

※保健体育の学習の後に本時を位置付ける場合、緩和ケア等の学習内容との関連を意識して働きかけ、いのちの尊さについて多面的・多角的に考え、より深く考えることができるようにする。

## 中学校第2学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 健康な生活と疾病の予防② 3. がんの予防 (外部講師：医療関係者)

2 本時のねらい

「がん」の発生要因や予防方法、検診の有効性などについて深く理解することを通して、自分や家族の健康と命の大切さについて考え、がんの予防について自分の考えをもつことができる。  
(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>事前アンケート結果を見て、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実は、がんのリスクの高い生活をしているかもしれない。がんのリスクを下げる生活習慣は何だろうか？</li> <li>・検診にかかる費用や有効性は、実際どうなのかな？</li> <li>・専門家の話を聴いて、自分にできることを考えよう。</li> <li>・今日は、外部講師に直接質問できるよい機会だ。</li> </ul> <p><b>がんについて正しく理解し、がんを予防するためにできることを考えよう。</b></p>	<p>◇前時学んだことや事前アンケートについて振り返ること、「がん」について抱いた疑問や予防法について学ぶことの必然をもつことができるようにする。</p> <p>※事前アンケートと関わらせて外部講師にお話いただくことで、より深く学ぶことへの期待感を高められるようにする。</p>
展開	<p>2 調べ学習</p> <p><b>がん予防について家族向けの改善プランを立てよう。</b></p> <p>①「がん検診」受診率向上プラン ②がんリスク低減生活習慣改善プラン</p> <p>2つのチームに分かれて、問題点の洗い出しと、家族へ向けた改善プランの立案を行う。</p> <p>①問題点と改善プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世論調査の「がん検診未受診の理由」に、がん検診受診率向上につながるヒントがありそうだ。</li> <li>・私の家族は、学校でがんについて学んでこなかった世代だから、私が正しい情報を家族に伝えるぞ。</li> </ul> <p>②問題点と改善プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの種類によって、リスクを下げるために気を付けるべき生活習慣が違うんだな。</li> <li>・我が家は、〇〇の傾向があるから、〇〇を増やして(減らして)、リスクを下げるように提案しよう。</li> </ul> <p>3 各グループの発表</p> <p>他チームの発表を聞き、多面的・多角的に考える。</p> <p>4 講師からの助言</p> <p>がんの予防に効果的な取組について理解を深める。</p>	<p>◇事前アンケートから把握した生徒の疑問や不安に感じることなど、あらかじめ講師に伝えておき、グループの調べ学習に意図的に関わっていただくようにする。</p> <p>◇調べる内容ごとに参考WEBサイトをまとめておき、情報の整理により多くの時間を使うことができるようにする。</p> <p>参考：国立がん研究センター ：がん情報サービス</p> <p>◇具体的な場面を想起できるように問いかけ、自分の生活とつなげながら考えることができるようにする。</p> <p>※家庭の事情によって現状では難しいこともあるため、「すぐに取り組みたいこと」「今後大切にしたいこと」に整理して考えるようにする。</p> <p>◇全体で交流した内容に対して、講師から感想や助言をしていただく。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの予防には、適切な生活習慣や早期発見のためのがん検診などが効果的だということが詳しくわかった。</li> <li>☞がんになるリスクが高くなるのに、私の家族は喫煙をしている。私や家族が「がん」になりにくくするために、今晚、禁煙について家族に話をしよう。</li> <li>☞早期発見すれば95%の人が治る可能性があるのに、受診率が50%以下なんて信じられない。案内のはがきが届いていたから、がん検診を受けるように話をしよう。そして、私も時期が来たら必ず検診を受けよう。</li> </ul>	<p>◇がんの予防について家庭で話すことをワークシートにまとめることによって、自分や家族の実態を踏まえ、健康の大切さについて主体的に考えることができるようにする。</p> <p><b>【評価規準】</b> 思考・判断・表現 がんの予防方法を基に自分や家族の生活を振り返り、がんの予防のために取り組みたいことをまとめている。</p>

## 中学校第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名 がんの治療で大切なこと (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時のねらい

自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習(がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等)をもとに、自分にできることを考えることができる。

(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>○自分や身近な人が「がん」と知らされたとき、どのようなことを思うのか考える。(グループでの交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見なら95%以上が治ると言われているけれど、自分は治るのだろうか不安になる。</li> <li>・今の生活が続けられなくなると思うから、とても不安。</li> </ul> <p>○「緩和ケア」について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や心のつらさを和らげるための医療が「緩和ケア」なのか。これからのために、詳しく知りたいな。</li> </ul> <p>自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。</p>	<p>◇既習の内容を簡潔に振り返ったうえで「もし自分や身近な人が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として想像し、主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※外部講師を紹介し、緩和ケアについて説明するとともに、漠然とした不安や想像した心のつらさについて一緒に考えてもらえることを伝えることで、学習への意欲を高める。</p>
展開	<p>2 家族や身近な人が「がん」と知ったとき、どのような思い、接するか、理由を含めて考える。 [グループ交流] → [全体交流] → [講師の助言]</p> <p>ケース①がんの経過初期における緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。</li> <li>・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。</li> </ul> <p>ケース②がんの経過後期における緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの分野の専門家が、チームで患者とその家族を支援する仕組みがあるんだな。</li> <li>・「自分らしく生き抜く」とは、どういうことなのかな。</li> <li>・治療中も、自分らしい生活ができるように支えたい。</li> </ul> <p>3 外部講師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療を理解し、自分で選択することが大切なんだな。</li> <li>・つらい思いをしたくないしさせたくない。だから、がん検診の大切さを家で話そう。</li> </ul>	<p>※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいる場合、本人及び保護者に事前説明をするとともに、授業中は本人の様子を観察するなど配慮する。</p> <p>◇2つのケース(「がんの経過状況」、「自分との関係」、「家族構成等の状況」)を例示し、自分との関係を想定して考えることによって、自分事として主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※共感的な理解が深まるように、外部講師の協力を得て、同世代の事例や、生徒と同世代の子どもをもつ親世代のケースを取り上げる。</p> <p>◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。</p>
まとめ	<p>4 振り返り(学びをつなげる)</p> <p>○本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。</p> <p>☞相手の思いに寄り添い、自分にできることをやっていきたい。そのためにも、日頃から自分の思いを伝え合う関係を築いていきたい。</p> <p>☞私の家族は、がん検診を受けているのかな。今日考えたことを話して、もし検診を受けていなかったら、家族のためにも検診を受けるように説得しよう。</p>	<p>◇学習したことを家庭で話し、感想をもらうようにすることで、健康の大切さについてより深く考えることができるようにする。</p> <p>【評価規準】思考・判断・表現 がんと診断された場合に自分にできそうなことや、自分や家族の健康のために大切にしたいことを、ワークシートに記述している。</p>

## 中学校第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名 がん患者への理解と共生 (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時のねらい

自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習(がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等)をもとに自分にできることを考えることができる。

(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>○自分が「がん」と診断されたら知りたいかどうか、理由を含めて考える。(グループでの交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種類によっては、早期発見で95%以上が治るから、早く治療するためにも知りたい。</li> <li>自分ががんになるなんて考えたこともなかった。とても怖いし、不安だし、ショック。知りたくないというか、受け止める自信がない。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。</p>	<p>◇生涯のうち2人に1人が何らかの「がん」になると推計されるなど、既習の内容を押さえたうえで「もし自分が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※外部講師(専門医・がん経験者)を紹介し、漠然とした不安について一緒に考えてもらえることを伝えることで、不安を和らげる。</p>
展開	<p>2 家族や身近な人が「がん」と診断されたら、どのように関わっていくか、理由を含めて考える。(グループおよび全体での交流)</p> <p>[グループ] → [全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ、普段通りの生活ができるように接する。</li> <li>自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるようにする。とにかく支えになりたい。</li> <li>私も～さんと同じことを考えたな。</li> <li>そうか、確かに自分だったら～してほしいと思うな。</li> </ul> <p>3 がん経験者や専門医の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「がん」だとわかったときには、～だと思っただな。</li> <li>もし私の家族が「がん」だとわかったら、～をして支えになりたい。</li> </ul> <p>4 自分が「がん」と診断されたら、周りの人や家族に伝えるか・伝えないか考える。(グループ及び全体での交流)</p> <p>[グループ] → [全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>心配をさせたくないから、黙っていようかな。</li> <li>逆の立場だったら支えになりたいと思う。だからこそ、私は伝える。</li> <li>一人で抱えることは、あまりにも不安が大きくて考えられない。家族と一緒に治療したい。</li> </ul>	<p>◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。</p> <p>※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいたりする場合、様子を観察するなど配慮する。</p> <p>◇映像教材「がんと生きる」を視聴し、がん経験者の思いを知ることで、自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを具体的に考えることができるようにする。</p> <p>※がん経験者にお話をさせていただける場合、</p> <p>①「がん」だとわかったときのこと ②治療のときに支えになったこと ③今、大切にしていること</p> <p>の3点について話をさせていただく。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <p>○本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞治る可能性がゼロではないから、その可能性を高め、治療に専念できるように、～をして、不安や負担を軽くしてあげたい。</li> <li>☞まずは、家族とがんについて話をし、がん検診や健康診断を必ず受けるように説得したい。</li> </ul>	<p>◇外部講師(がん経験者・専門医)から感想や助言をいただく。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】思考・判断・表現 自分や身近な人ががんと診断された場合にどう行動するかを、保健体育科での学習をもとにワークシートに記述したり、発表したりしている。</p>

## 高等学校第1学年 保健体育科学習指導案

### 1 単元名 現代社会と健康 がんの予防と回復

### 2 本時の目標

- (1) がんのリスクを軽減し予防するためには、調和のとれた健康的な生活を続けることや、がん検診を受診することが必要であることを理解する。(知識)  
 (2) がんのリスクを軽減し予防するための生活や行動を考える。(思考・判断・表現)

### 3 本時の展開

避	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの種類について理解する。	○がんにはどんな種類があるか、知っていることを発表する。 ・肺がん ・大腸がん ・胃がん ・乳がん ・子宮頸がん	◇発表後、日本の主ながんの罹患数と死亡数を提示する。
がんになるリスクを軽減し、予防するための生活や行動について考えよう。			
展開	2. がんのリスクを減らす行動を考える。  3. がん検診の必要性について考える。	○がんになるリスクを減らす行動を考える。 <グループ交流> ・バランスよく食べるようにしたい。 ・適正体重を維持したい。 ・将来、たばこは吸わないようにしたい。  ○がん検診の必要性について考える。 ・多くのがんは、早期に発見すれば、約9割が治る。 ・自覚症状がない期間に検診によって早期発見することが重要だ。	◇「がんを防ぐための新12か条」を提示する。 ※がんの原因は生活習慣だけでないことを押さえる。 ◇がんの病期別5年相対生存率のグラフを提示する。 ※がんの進行速度、自覚症状が現れる年数について押さえる。
	4. がんの治療法について理解する。	○なぜがん検診の受診率が低いか考える。 <グループ交流> ・受ける時間がない、自分は大丈夫だと思う気持ちもわかるが、早期発見受診すべき。  ○がんになった場合の治療法について考える。 <調べ学習>タブレットを活用して調べる。 ・主に化学療法、放射線療法、手術療法があり、それぞれの治療法には特徴がある。 ・緩和ケアというものもある。	◇がん検診の受診率のグラフを提示する。 ※生涯の内、二人に一人はがんにかかることを再度押さえる。 ◇インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明し、自分で治療法を選択する大切さについて伝える。
まとめ	5. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめる。 ・がん検診の必要性がわかったので、家族にも伝えたい。 ○次の時間、外部講師(医師やがん経験者)に聞きたいことをまとめる。 ・治療法の選択について詳しく知りたい。 ・家族ががんにになったら、自分たちにできることはあるのか聞きたい。	◇学習内容を振り返るとともに、もっと詳しく知りたいと思った内容をまとめ、次時につなぐ。 【評価基準】知識 がんのリスクを軽減し予防するために必要なことをまとめている。

# 高等学校第1学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 現代社会と健康 がんの予防と回復 (外部講師：医師、看護師)

2 本時の目標

がんの治療法を選択する上で大切なことは何か考えることを通して、がん患者の思いや、がんと共に生きる生活について理解を深めることができる。(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの治療法について理解する。	○がんの治療法の種類について発表する。 ・手術療法 ・放射線療法 ・化学療法 ・緩和ケアというのもあった。	◇始めに、本時の講師を紹介する。
	がんを治療していく上で大切なことは何か学び、がんとの向き合い方を考えよう。		
展開	2. がんの治療法をどのように選択するか考える。  3. 緩和ケアについて考える。	○がんになった場合、治療法を選択する上で、何を重要視するか考える。 <グループ交流> ①45歳既婚 子ども2人 家族を養っている時期 ②30歳独身 仕事に力を入れている時期 ③20歳学生 オリンピックに出場決定後 ●講師から治療で大切なことを聞く。 ・がんの治療は、後悔しないように納得できるまで医師と話し合い、最終的に自分で選択する。(インフォームドコンセント) ・治療方針は医師によって異なることがあるため、別の医師に意見を聞いてもよい。(セカンド・オピニオン) ・実際に関わった患者の事例を聞く。  ○もし自分ががんになったら、不安になることはないか考える。 <グループ交流> ・痛みや吐き気など、治療中も苦しいと思う。 ・治療費がいくらかかるか心配になる。 ・もう今まで通りの生活はできないだろうと悩む。 ●講師から緩和ケアについて話を聞く。 ・緩和ケアは、終末期だけでなく、がんと診断されたときから始まる。 ・単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援である。	◇①～③をグループに分けて考え、その後、全体交流を行う。 ※状況や考え方によって、治療法も異なってくることを理解できるようにする。 ◇病期、検査、治療について十分理解した上で、医師ではなく、自分が決定することを押さえる。 ◇がんの種類や進行度によって、組み合わせることもあることを押さえる。 ◇体の苦痛と心の苦痛の2つに整理してまとめる。 ◇相談窓口があることを伝える。 ◇治療と平行して緩和ケアを行い、状況に合わせて割合を変えていくことを押さえる。
まとめ	4. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめる。 ・がんになっても、がん向き合い、自分らしく生きていくことが大切である。 ●医師としての思いを聞く。	◇がん治療は、今後の生活や生き方も踏まえて選択すること、生活の質(QOL)の維持向上も大切であることを押さえる。  【評価規準】 思考・判断・表現 がんの治療法を選択する上で大切にしたいことについて、まとめている。

## 高等学校第1学年 特別活動学習指導案

1 単元名 がん患者への理解と共生 (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時の目標

がんにかかっても、多くの人が治療をしながら生活していることを知り、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える。(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの問題を自分事としてとらえる。	○日本人が「がん」になる確率を振り返る。 ・二人に一人はかかる可能性がある。 ・自分や家族、身近な人もなる可能性は高い。	◇始めに、本時の講師を紹介する。
	もし身近な人ががんになったら、どうすればよいだろう。		
展開	2. 身近な人ががんになった時自分にできることはないか考える。	○もし、友人や家族ががんにかかったら、どんなことをしてあげたいか、具体的な事例を基に考える。 <グループ交流> ・今までどおり接したい。 ・たくさん会話をしたい。 ○もし今自分のがんと診断されたら、どんな気持ちになるか考える。 ・なぜ自分のがんになってしまったのか。 ・もう先が見えない。 ・不安しかない。 ●講師から、がんになったときや治療しているときに支えとなったのは何か話を聞く。 ○事例や講師の話聞いて考えたことを交流する。	※がんになった経験のある生徒や、身近に闘病中の家族がいる場合は、事前に学習内容を伝えるなど、配慮する。 ◇がんに関する相談窓口があることを伝える。 ※講師の話も一例であり、コミュニケーションをとり、何を求めているか知り、寄り添う姿勢が大切であることを伝える。
	3. がん患者が暮らしやすい社会について考える。	○がん患者が暮らしやすい社会とはどんな社会か考える。(就職した自分をイメージして考える) <グループ交流> ・がんについて正しく理解し、偏見や差別を受けない社会。 ・治療しながらも、仕事が続けられるような理解のある職場であってほしい。	◇がんの治療をしながら、日常生活を送っている人は増えていることを押さえる。
まとめ	4. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめ、発表する。 ・友達や家族ががんになっても、自分のできることをして支えていきたい。 ・がん患者が働きやすい社会を作っていきたい。 ●生徒が発表した内容について、がん経験者としての思いを聞く。	◇がんを正しく理解し、自分のできることを考え行動していくことが大切であることを伝える。 【評価規準】 思考・判断・表現 自分や身近な人ががんになった場合にどう行動するか、まとめている。

- ◇小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 文部科学省
- ◇中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 文部科学省
- ◇高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 文部科学省
- ◇小学校学習指導要領 解説 体育編 (平成 29 年告示) 文部科学省
- ◇中学校学習指導要領 解説 保健体育編 (平成 29 年告示) 文部科学省
- ◇高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編 (平成 30 年告示) 文部科学省
- ◇学校におけるがん教育の在り方について報告 (平成 27 年 3 月)  
「がん教育」の在り方に関する検討会
- ◇外部講師を用いたがん教育ガイドライン (平成 28 年 4 月) 文部科学省
- ◇小学校版 がん教育プログラム 補助教材 (平成 29 年 3 月)  
株式会社キャリアリンク (文部科学省委託事業)
- ◇中学校・高等学校版 がん教育プログラム 補助教材 (平成 29 年 3 月)  
株式会社キャリアリンク (文部科学省委託事業)
- ◇がん教育推進のための教材 (平成 28 年 4 月 (平成 29 年 6 月一部改訂)) 文部科学省
- ◇がん教育における配慮事項ガイドライン (令和 2 年 2 月)  
一般社団法人 全国がん患者団体連合会

岐阜県教育委員会 体育健康課  
学校保健係 宛

FAX : 058-278-3542

Mail : cl7769@pref.gifu.lg.jp

# 岐阜県がん教育外部講師登録用紙

1. お名前 ※複数ご登録いただく場合は、病院名・団体名および人数をご記入ください。

	名
◆医師… 名 ◆看護師… 名 ◆がん経験者… 名 ◆その他 ( ) …名	

2. 対応可能な地域、校種及び指導形態 ※該当を■にしてください。複数回答可です。

【地域】 岐阜 西濃 中濃 東濃 飛騨

【校種】 小学校 中学校 高等学校

【オンライン指導】 可能

3. お話しいただける内容 ※該当項目を■にしてください。複数回答可です。

<input type="checkbox"/> がんの要因	<input type="checkbox"/> がんの治療における緩和ケア
<input type="checkbox"/> 日本（岐阜県）におけるがんの現状	<input type="checkbox"/> がん患者の生活の質
<input type="checkbox"/> がんの経過と様々ながんの種類	<input type="checkbox"/> がん患者への理解と共生
<input type="checkbox"/> がんの予防	<input type="checkbox"/> がんの体験談
<input type="checkbox"/> がんの早期発見とがん検診	<input type="checkbox"/> いのちの大切さ
<input type="checkbox"/> がんの治療法	<input type="checkbox"/> その他（内容は備考に記載）

4. 謝金・費用 ※該当項目を■にしてください。

謝金希望 旅費希望 不要

5. ホームページへの掲載 ※該当項目を■にしてください。

可 不可

※掲載「可」の場合、「6. 連絡先」に掲載してよい連絡先をご記入ください。掲載「不可」の場合、教育委員会留めとさせていただきます。

6. 連絡先

【連絡先名称】

【所在地】

【電話番号】

【FAX】

【メールアドレス】

7. 備考（依頼の時期、連絡・指導可能な曜日や時間帯等の要望をご記入ください。）

**〇〇教育委員会  
担当 〇〇 宛**

FAX : 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

Mail : @ .jp

## がん教育に係る外部講師派遣申請書

申請者	学校名			
	住所			
	電話		FAX	
	(フリガナ) 担当者名			
	e-mail			
希望内容	日時	第1希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
		第2希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
		第3希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
	場所			
	対象者	学年： 年生	規模： <input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 学年 <input type="checkbox"/> 全校	
		人数： 人	※該当項目を■にする。	
	講師希望	<input type="checkbox"/> 医師・看護師等、医療従事者		
		<input type="checkbox"/> がん経験者		
※依頼する講師が決まっている場合は、講師名を記入する。		講師名：		
指導内容	※該当項目を■にする			
	<input type="checkbox"/> がんの要因 <input type="checkbox"/> がんの現状 <input type="checkbox"/> がんの経過とがんの種類 <input type="checkbox"/> がんの予防 <input type="checkbox"/> がんの早期発見とがん検診	<input type="checkbox"/> がんの治療法 <input type="checkbox"/> がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> がん患者への理解と共生 <input type="checkbox"/> その他 ※備考に記入。		
謝金・旅費				
備考				

(別紙 2-2)

令和〇年〇〇月〇〇日

岐阜県教育委員会  
体育健康課長 様

教育委員会名： 〇〇教育委員会  
〇〇課  
担当者名： 〇〇 〇〇  
電話番号：

がん教育に係る外部講師派遣について（依頼）

このことについて、下記のとおり申し込めますので、外部講師の紹介をお願いします。

記

申請者	学校名			
	住所			
	電話		FAX	
	担当者名			
	e-mail			
希望内容	日時	第1希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
		第2希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
		第3希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
	場所			
	対象者	学年： 年生 人数： 人	規模： <input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 学年 <input type="checkbox"/> 全校 ※該当項目を■にする。	
	講師希望 ※該当項目を■にする。 ※依頼する講師が決まっている場合は、講師名を記入する。	<input type="checkbox"/> 医師・看護師等の医療従事者		
		<input type="checkbox"/> がん経験者		
	指導内容 ※該当項目を■にする	講師名：		
		<input type="checkbox"/> がんの要因 <input type="checkbox"/> がんの現状 <input type="checkbox"/> がんの経過とがんの種類 <input type="checkbox"/> がんの予防 <input type="checkbox"/> がんの早期発見とがん検診	<input type="checkbox"/> がんの治療法 <input type="checkbox"/> がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> がん患者への理解と共生 <input type="checkbox"/> その他 ※備考に記入。	
謝金・旅費				
備考				

(別紙3)

〇〇第〇〇号  
令和〇年〇〇月〇〇日

〇〇 様

〇〇教育委員会  
〇〇〇〇

がん教育に係る外部講師派遣について (案内)

先に依頼のありました標記のことについて、下記のとおり案内します。  
つきましては、講師と打合せの上、講師に直接依頼していただくとともに、がん教育の充実についてご配慮をお願いします。

記

所属 氏名			
住所			
電話		FAX	
e-mail			
派遣の可否 <small>※申請書に記載の希望日について、外部講師依頼先に確認し、派遣可能な日に「〇」を入力する。</small>	第1希望：	令和 年 月 日 ( )	: ~ :
	第2希望：	令和 年 月 日 ( )	: ~ :
	第3希望：	令和 年 月 日 ( )	: ~ :
指導可能テーマ	<input type="checkbox"/> がんの要因 <input type="checkbox"/> がんの現状 <input type="checkbox"/> がんの経過とがんの種類 <input type="checkbox"/> がんの予防 <input type="checkbox"/> がんの早期発見とがん検診	<input type="checkbox"/> がんの治療法 <input type="checkbox"/> がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> がん患者への理解と共生 <input type="checkbox"/> その他 ※備考を参照	
謝金・旅費			
備考			

〇〇教育委員会 〇〇課	
担当	〇〇
電話	- - (内線 )

(別紙4)

## がん教育事前打ち合わせシート

日時及び場所	令和 年 月 日 ( ) : ~ :	
事前指導内容 (指導済み☑)	<input type="checkbox"/> ア がんとは(がんの要因等) <input type="checkbox"/> イ がんの種類とその経過 <input type="checkbox"/> ウ 我が国のがんの現状 <input type="checkbox"/> エ がんの予防 <input type="checkbox"/> オ がんの早期発見・がん検診	<input type="checkbox"/> カ がんの治療法 <input type="checkbox"/> キ がん治療における緩和ケア <input type="checkbox"/> ク がん患者の生活の質 <input type="checkbox"/> ケ がん患者への理解と共生
事前・事後学習 (指導内容)	事前： 事後：	
本時のねらい (指導の重点)		
授業概要(主な学習活動)	講師の方へお願いしたいこと(☑)	
	児童生徒の実態及び必要な配慮	
授業当日までに準備すること		
<学校>		
<外部講師>		

〇〇病院 病院長 様

所属長 校長名

所属長に出す場合

がん教育外部講師派遣について（依頼）

学校におけるがん教育充実のため、下記のとおり授業を行います。  
つきましては、貴所属 \_\_\_\_\_ 様 を講師として依頼しますので、ご派遣くださいますようお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和 年 月 日 ( )  
時 分 から 時 分まで
- 2 場 所 学校  
(住所 )
- 3 内 容 教科、領域  
例：特別活動 学級活動（2）  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成  
※保健体育科でがんに関する基本的な内容を学習しています。
- 4 対象者 〇年 〇名
- 5 その他 ・ 〇〇の規定に基づき、〇〇から謝金・旅費をお支払いいたします。

事前打診の際に確認する。

所属校：  
所属長：  
担 当：  
Tel：  
Fax：  
e-mail：

(外部講師) 様

所属長 校長名

がん教育外部講師派遣について (依頼)

学校におけるがん教育充実のため、下記のとおり授業を行います。  
つきましては、ご多用のところとは存じますが、講師としてご指導いただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和 年 月 日 ( )  
時 分 から 時 分まで
- 2 場 所 学校  
(住所 )
- 3 内 容 教科、領域  
例：特別活動 学級活動 (2)  
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成  
※保健体育科でがんに関する基本的な内容を学習しています。
- 4 対象者 ○年 ○名
- 5 その他 ・〇〇の規定に基づき、〇〇から謝金・旅費をお支払いいたします。

事前打診の際に確認する。

所属校：  
所属長：  
担 当：  
Tel：  
Fax：  
e-mail：

がん患者や専門的な知識を有する外部講師紹介に関する相談や、本手引に対する質問等ございましたら、下記へ問い合わせください。



岐阜県教育委員会 体育健康課 学校保健係

TEL : 058-272-8768

FAX : 058-278-3542

e-mail : C17769@pref.gifu.lg.jp

「がん教育外部講師リスト」は、岐阜県教育委員会ホームページ（学校保健・学校給食-岐阜県公式ホームページで検索）に掲載しています。詳細については、以下のURL又はQRコードより検索してください。

「がん教育 外部講師リスト」（体育健康課 学校保健係）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/2640.html>



## <関連リンク>

「岐阜県のがん対策」（健康福祉部 保健医療課）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/77391.html>



「ぎふがんねっと」岐阜県がん患者支援情報提供サイト

<https://gifugan.net>



「がん情報サービス」

国立がんセンターがん対策情報センター

<https://ganjoho.jp/public/index.html>



※令和5年3月現在

## 令和4年度 学校におけるがん教育推進協議会委員

県医師会代表	常務理事	山本昌督
がん診療連携拠点病院代表	岐阜大学医学部附属病院医師	小関道夫
学識者	県立看護大学教授	岡永真由美
外部講師代表（医師）	大垣市民病院副院長	進藤 丈
外部講師代表（がん経験者）	あけぼの岐阜代表	橋渡智美
教員代表（中学校）	岐阜市立境川中学校教諭	齋藤里華
教員代表（高等学校）	県立揖斐高等学校教諭	松野将之
養護教諭代表（小・中学校）	岐阜市立茜部小学校養護教諭	川島あけみ
養護教諭代表（高等学校）	県立大垣北高等学校養護教諭	渡部美佐
行政担当者	県健康福祉部・保健医療課長	井上玲子
県教育委員会事務局	体育健康課教育主管	中村康男
県教育委員会事務局	体育健康課課長補佐	池田 勉
県教育委員会事務局	体育健康課課長補佐	大竹美保
県教育委員会事務局	体育健康課課長補佐	井上 誠

